



優秀句

俳句	作者
向日葵や三男五女に虫歯無し	このはる紗耶
向日葵やパラグライダー離陸せり	ちゃうりん
青空のまぶしき向日葵の雫	ぴおりーと
抱へたる向日葵いくつかは外ウー	小倉じゅんまき
向日葵や海に孔雀の羽根のいろ	小川めぐる
向日葵に睨まれながら吸う煙草	516
首かしげたる向日葵とバス待てり	あい琶
この海へあなたの骨と向日葵と	あるきしちはる
向日葵にサイレンの来て去りにけり	いみじ雲
向日葵や夕陽にさらす除染服	うに子
向日葵へ白きシーツの翻る	オオママ
向日葵の咲く雨の野の明るさよ	きさらぎ恋衣
ひまわりの数えつかれた百からね	さな(5さい)
向日葵や本土から来るメロンパン	すりいひい
整列の夜の向日葵に好かれをり	トボル
ひまわりのたねにひみつがつまってる	どれみちゃん
向日葵や磁針ふるふるゆれる午後	のんしゃらん
教卓へひまわり今日は花係り	ほろよい
向日葵や誰も居らざる蟹が家	みなと
雲の滯吸いヒラソルの地平線	モッツアレラえのくし
向日葵の小径の奥のカフェテラス	れんげ畑
向日葵よ包める英字新聞よ	伊奈川富真乃
向日葵やコサック向かふ東へと	伊予吟会 宵嵐
吾を超へ屋根超へ向日葵に野望	郁
向日葵や淋しがりやのジャンの墓	一走人
向日葵てふ呪い明るく列をなす	海田
向日葵や海の青さに少女の瞳	檜の木
母の腕より太き母の向日葵	亀田荒太





優秀句

俳句	作者
コテージで飼われたる猫日輪草	桜桃
ぐいと拭く口元ひまわりの高さ	三月
向日葵やゆっくり進む飛行船	小市
ひまわりや朱肉が乾ききっている	小泉岩魚
ひまわりの根っこ書かれてない日記	小田寺登女
向日葵やアンダルシアの赤き土	松山帖句
晩鐘の土へ向日葵黙禱す	西川由野
ひまわりやみな手を挙げる参観日	石川焦点
向日葵やさうさうと星撫づる風	土井探花
向日葵や一番ちびの黄のクレヨン	穂の美
向日葵の金のしづくに溶く絵の具	立川六珈
葬礼の結界向日葵の黄色	竜胆
向日葵や樹根太鼓を奉納す	松山のリョウチャン
ひまわりに睨まれ捨てる回答書	新月
向日葵や空に溺れてしまいそう	榊
向日葵を食む虫ふいに名を呼べる	鈴屋
日車や伴天連迫害の記録	鈴屋
ひまわりにわたしのひみつ言いかける	小葉
向日葵にきのうの雨の音がある	雅姫
子犬よ走れヒマワリの風の中を	大飛
向日葵の炎のにおい天空へ	涼
向日葵へ邪馬台国の風ふわり	玲勇
子らの声弾むひまわり迷路かな	芝辻拓磨
ひまわりや少年が駆け馬が駆け	橋本とも子
ひまわりがわたしとわらうねこわらう	えさきみく
ひまわりがくもをみているそとにでる	おおぬまそうすけ
あさおきてひまわりゆらすかぜのおと	坪内りん
向日葵の茎苦き味みづの味	三原瑛心





佳作

俳句	作者
古アパートに向日葵持って君が来て	都乃あざみ
向日葵や百万本の花迷路	KAZUピー
向日葵やいつも明るいわけじゃない	あつむら恵女
ざあざあ降りに濡れて祈る向日葵	あめ
ひまわりにあいさつをして登校す	あらあらた
向日葵やアルテミスにも愛されて	アンリルカ
向日葵やサイクリングの列の声	かくあつ
向日葵や父の肩車の高さ	かつたろー。
向日葵を咲かせ無人の駐在所	かをり
向日葵の目の眩しかる朝帰り	ぐずみ
ひまわりや黄色の蛇であそぶ夕	けいご6才
一斉に向日葵風と手をつなぎ	さとう菓子
野外フェスひまわり歌う風走る	しじま
向日葵の孤独は蒼き空を射る	じゃすみん
向日葵に挑むや迷路畑へと	ジュミー
向日葵の発信地球の気持ち	そらうみ88
にいちゃんのひまわりはもうかれちゃった	たくみ4才
千の向日葵まっすぐ育て千の子ら	タケニー
向日葵抱いて暮れぬ少年一人	たま
向日葵の伸びたる先に空は青	ちびうさ
向日葵の種に無限の夢ありて	ちるちるみちる
向日葵を日時計として使いたい。	デングルマン
向日葵を太陽の五倍に描く	ときこ
背を丸め育てたる向日葵しゃきん	なおばら
太陽とともに生きてく向日葵や	ぬまっち
ひまわりやあいさつ二階まで飛ばし	はな
僕だって向日葵くらい描いたけど	ひでやん
向日葵やコンクールまであと三日	ひな三葉
ひまわりの衛星のごと陽をうけて	ひょうえもん
堤防の二人の距離を向日葵は	ふぢこ
ヒマワリのぜんまい回し動きだす	みなつ
向日葵や今日は連続青信号	ももたもも
向日葵や指揮に食いつく子供達	ゆすらご





佳作

俳句	作者
羊水の海の匂ひや日輪草	ラーラ
背伸びして夜空ながむる向日葵か	ラジャーナイン
向日葵や喉を鳴らして乳飲む子	葦たかし
向日葵の海に浮かべる野球帽	伊予吟会 心嵐
おしゃべりな向日葵たちの後頭部	一斤染乃
向日葵や淡き紅さす女学生	花 節湖
向日葵と入日の長き立話	霞山旅
向日葵と飛行機雲と我的手と	雅かめ乃
ストローで水飲む人や日輪草	菊池洋勝
向日葵や朝から響く母の声	佐川寿々
声飛ばせあの向日葵に届くまで	砂山恵子
ひまわりや沖にヨットの帆が三つ	彩楓
あるかしらあの日に植えた向日葵は	志音
向日葵やフェイスブックの連絡網	珠桜女あすか
向日葵が受けて立ちます強光を	春夏冬
車窓には向日葵の黄と空の青	小鞠
向日葵の町に福音届きけり	小青
ひまわりや3万本のマスゲーム	小風
花卉抜く向日葵灼けた陽のごとく	松永裕歩
向日葵に水たつぷりと塾講師	城内幸江
失恋は無し向日葵の片思い	水間澱凡
向日葵や隣の犬は去勢犬	千子
向日葵や揺らめきの風吹き抜ける	太鼓祭り好きの祭り娘
向日葵のなき声きこゆ山の溪	台所のキフジン
紛争の土に植えます大向日葵	谷口詠美
ひまわりが並んで咲いた道ひとり	朝路里
ひまはりの少年席に着きなさい	直木葉子
向日葵がひそと道指す般若坂	湯来玉
向日葵や被災地の静かな校舎	奈良香里
向日葵や姉は離縁を伝へ来る	内藤
向日葵やツインテールの漕ぐペダル	猫愛すクリーム
向日葵や足元揺らぎそうな空	柊 月子
向日葵がずらりと並ぶ消防署	姫山りんご
向日葵やラケット放り出し蛇口	富山の露玉



佳作

俳句	作者
向日葵を一本活けて落ち着かず	歩櫓玉
初陣の空に向日葵掲げをり	凡鑽
広報に祖父と向日葵五メートル	抹茶金魚
ふいと来て顎が向日葵見つめをる	棕本望生
黄が黄喰う日輪草や地を満たす	野中泰風
先生の恋を向日葵見て居りぬ	柳児
ひまわりさんもう5じになるみんなかえる	悠生
向日葵や午前零時の恋煩い	夕加
小さき手に点呼されひまわりの種	夕花
クシコスの郵便馬車とひまわりと	誉茂子
ひまわりの今年限りの色をして	葉月けみ
向日葵の風はるかなる地平線	柝の音
向日葵や帽子大きな自撮り女子	洒落神戸
向日葵や子ら遊び入りまどろみぬ	新居浜のペケポン
向日葵や出席番号順に立つ	牡丹
ひまわりがげんきにさいたきょうのあさ	あやか
ひまわりがぼくのおんどくきいている	こうへい
ひまわりのお空へジャンプするわたし	かれん
ひまわりはみんななかよし右をむく	紗唯
太ようとぼくとひまわりジャンケンポン	叶武
ひまわりにまけないようにせのびする	海音
向日葵千本地球は金色	力也
青空と小さなぼくと向日葵と	璃空
空から見下ろす一面の向日葵	凜花
ひまわりの傘でずぶぬれ十年前	木野鈴菜
ひまわりをみつめて想ふあなただけ	三木悠未
ひまわりでやんちゃにあそぶおとうとだ	阿部 純大
ひまわりのたねがたくさんとれるんだ	太田 悠登
ひまわりとそらがおはなしこんにちは	てらまえりのあ
ひまわりがたいようをみてやけどした	かまだゆうひ
ひまわりがきらいなきいろいろいいにおい	たにおかゆら
ひまわりがそらのきょじんを見ているよ	渡部往人
ひまわりがむしをみていたにげられた	大西めい
ひまわりがれっしゃとともにくもとそら	山中さくら
ひまわりがなにをみてるかわからない	由川大翔





よるマチ!'s チョイス!

俳句	作者
走り寄るひまわりの笑顔宝物	み～にゃん
みえないよそばにいたいよひまわりや	西田佳織
思いつく向日葵一句ありません	柳本貴大
ひまわりだぼくよりたかくのびてるな	唐松 咲弥

ちょこっとアドバイス句

◆俳句の正しい表記をマスターしよう!

俳句	作者
亡き母と 向日葵の笑み 世界一	ちゅら
向日葵に似ている笑顔 まぶしくて	ブラックにゃんこ
向日葵や 空見て笑う赤子かな	聖子

横に長いテレビに映す時は泣く泣く三段に分けて書きますが、俳句は「五七五の間を空けず一行に縦書き」するのが正しい表記。強い芸術的主張がない限りはこの基本を守っていきましょう。表記を守って次回投句お待ちしております！（正人）





◆「一句に季語は一つ」が基本!

俳句	作者
向日葵と白きワンピース夏来る	太田 正明
夏の恵み種のかずほど向日葵は	やすお
夏日影ひまわり囲まれひとやすみ	小島彩香
ヒマワリと夜空見上げて夏花火	岡田湧貴
あつい日の花はぜったいひまわりだ	須賀 健太郎
夏のひるひまわり畑のしゃしんとる	篠塚 太一
夏ごろにひまわりさいて暑さたえ	三浦 向日葵
ひまわりがたいようをみてひやけする	とよたゆうすけ
ひまわりがせみをみながらゆれている	元屋暁仁

一句に季語が二つ以上入っている状態を「季重なり」といいます。世の中には季重なりの名句もありますが、基本は「一句一季語」から始めていきましょう。もちろん「この言葉が季語だなんて知らなかった!」とうっかり使ってしまうこともありますよね。そういう時は辞書をひいて、どの言葉が季語かを調べてみましょう。知らなかったことを知るって楽しいですよ〜♪(正人)

◆描かれたひまわり

俳句	作者
ひまわりのレースバックを句の種に	橘雅子
青春の一ページにありひまわりの画	藤原佐代

画の「ひまわり」にバックの「ひまわり」、どちらも本物のひまわりではないけれど…という句です。この場合、季語としての力はいささか弱いと判断されます。(正人)

◆歴史的仮名遣い

俳句	作者
ひまわりが目じるしとゆふ君の家	はまゆう

歴史的仮名遣いで書かれた句です。「ゆふ」の部分が普通日常で表記する「いう」と違っているのわかりますね。歴史的仮名遣いで書く場合、その一句は全体が仮名遣いを統一されていなければなりません。この句では二カ所仮名遣いに誤りがありますから、そこだけ修正すれば完璧。仮名遣い正しくはこういう形になります。「ひまはりが目じるしといふ君の家」(正人)





どうしても語りたい! 秀句紹介

◆放送で紹介しきれなかったけどどうしても語りたい秀句を紹介するコーナー

俳句	作者
向日葵や三男五女に虫歯無し	このはる紗耶

「向日葵」は様々なイメージを持ちますが、この句の「向日葵」は文句なく明るい! 「三男五女」の大所帯を思うとき、読み手の脳裏に浮かぶのは子ども達よりもむしろ何十年を生き抜いたご老人方でしょうか。兄弟姉妹が集まってかっかっかと笑い合う、その口には一本たりと「虫歯無し」! 元気な歯でこの夏も大いに食って飲んで乗り切って下さることでしょう。詠嘆される「向日葵」が一句を象徴する明るさとして燦然と突っ立ちます。

俳句	作者
向日葵やパラグライダー離陸せり	ちゃうりん

「向日葵」という季語を見たとき、脳内に描く本数にも幅がある季語です。たった一本だけの「向日葵」もあれば、広々と咲き広がる「向日葵」畑を想像する人もいるでしょう。この句で描かれている光景は後者。「向日葵や」と最初に強く詠嘆することで光景が広がります。眼窩に広がる広大な向日葵畑。助走をつけ、今まさに「パラグライダー」は「向日葵」へ突っ込まんとしています。その瞬間、ふわっと浮き上がる翼。突っ込むかと思った向日葵畑は足の下を滑るように流れていきます。まさに立った今「離陸」した、その感動の鮮度が「離陸せり」の下五にパッキングされています。

俳句	作者
青空のまぶしき向日葵の雫	ぴおりーと

こちらの「向日葵」はたった一本。その堂々たる一本に焦点を絞って描ききります。最初に出てくるのは「青空」。抜けるような青空には「まぶしき」太陽も輝いています。しかし「まぶし」さの正体は太陽そのものではありません。陽光はすっと立つ「向日葵」へ降り注ぎます。その立派な花冠の外輪にはまさに垂れ落ちんとする「雫」。眩しく震える「雫」を下から見上げているような心地にさせてくれます。「青空」を背景にした「向日葵」の威容と、その先端に震える「雫」の見事なりアリティ。「青空」の一語から始まった言葉が全て下五へと収束していく語順もお見事でした。





どうしても語りたい！秀句紹介

俳句	作者
抱へたる向日葵いくつかは夕ウー	小倉じゅんまき

「向日葵」の派手さを活かした句もやはり見ておきたいところ。目の付け所が実にユニークです！「抱へたる」という動詞はある程度の大きな分量を想像させます。ちょっと持てる程度ではない、抱えねばならない程の大きな大きな向日葵、それが何本も！それを抱きかかえて歩く人物。ゆっさゆっさと揺れるもんだから、はたして何本を抱えてるのかもはっきりとはわかりません。歩く花束みたいな人物をよよく観察してみると...むき出しの腕には本物と見まがう見事な「向日葵」の夕ウー！なーんだ全部が本物じゃなかったのか...なんて場面が想像されてきたわけです。明るく陽気な「向日葵」体験。

俳句	作者
向日葵や海に孔雀の羽根のいろ	小川めぐる

「海に孔雀の羽根のいろ」、美しい詩の言葉が目を惹きます。さあこの言葉と「向日葵」との取り合わせの接点はどこにあるのでしょうか？ 鮮やかな花の姿でしょうか？ それとも雄々しさでしょうか？ 僕は「動き」にあると読みました。海を見下ろせるような高台。そこに「向日葵」が咲いています。強い海風を受けて揺れる「向日葵」。その風は海面を渡り、次々とその色合いを変化させます。今眼前にひらめいた「海」の色は「孔雀の羽根のいろ」ではあるまいか。詩人たる作者の目は敏感にそれを捉えます。流動する自然美を描いて端正な一句です。



今回の「よるマチ！」では、
映画「君の臍臓をたべたい」の主演の
お二人、さらには、E-girlsのメンバーが松山を訪れ、
せっかく俳都に来たならと俳句を詠んでいただきました。
映画のを題材に詠んだり、新曲を俳句でPRしたりと、
俳句ってなんて幅広い表現ができるのだらうと改めて実感。
また、句会では、10代以下の方の俳句をご紹介しました。
みずみずしい感性！なんでこんなユニークな発想ができるん
でしょう！？うらやましい...笑
さらに、今回は、正人さんが番組で紹介できなかった
優秀句についてもコメントしたいと、こちらで熱く語って
くれています。ぜひ、チェックしてくださいね♪
かおり

